福岡県糸島郡志摩町における田園風景とその担い手に関する研究

九州大学大学院工学府　学生会員　髙橋　由資
九州大学大学院工学研究院　正会員　樋口　明彦

1．はじめに

日本各地で環境問題，地域性の維持などの視点から田園環境を保全していこうとする活動が見られ、都市近郊における田園地域においては都市部には無いまちの資源や個性として田園景観の重要性が指摘されている。

しかし、今日産業形体の変化に見られる1次産業の衰退や都市化の下で農地や山林の都市的土地利用等から都市近郊では田園景観の喪失が懸念されている。ここでは、田園景観又は風景といったものが、本来その景観を構成する要素に対し各地域での生産活動や生活自身が直接関与し培われてきたものと解釈する。

2．研究対象地の概要

福岡県西部，糸島郡志摩町(町土約5400ha，人口約1万7千人)は福岡市近郊に位置していながら田園景観を良く残す地域である。(図-1) しかし、九州大学の移転計画，近郊の都市開発の影響により、周辺景観との調和を無視した農地の大規模な宅地化や山林の宅地造成等が生じつつあり、田園景観の喪失が懸念される。また、町内においても産業形体の変化から農家数及び耕地面積の減少 (図-2) その他高齢化，新住民と旧住民の混住化などの問題点を抱えている地域である。当町では、今後のまちづくり方針として「田園居住のまちづくり」を目指しており、まちづくり応援団などの活動から田園居住策定委員会によってこれからのまちづくりの方向性の検討段階にある。

3．研究の目的

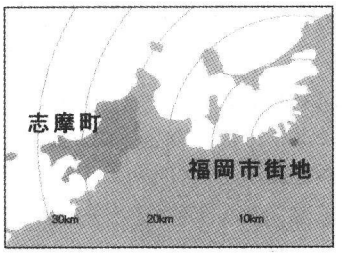
本研究では福岡市近郊志摩町桜井の田園風景に着目し、その維持管理について現地の景観構成を整理した上でヒアリングによりその管理が如何になされているかを明確化し、今後の田園景観維持管理に対する考察を試みた。

4．志摩町における田園景観構成要素

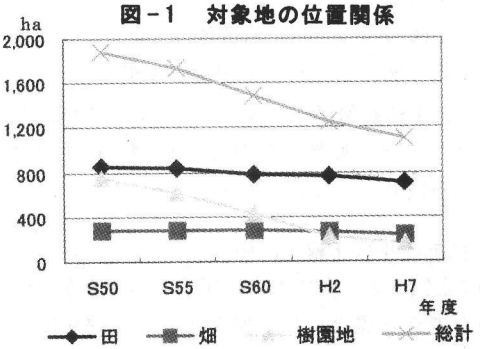
現地調査により桜井地区における田園景観の平面構成は、以下の2通りに分類できる。

①谷間型：里山の麓に集落が張り付き道路をはさんで水田などの耕作地が広がる地形。

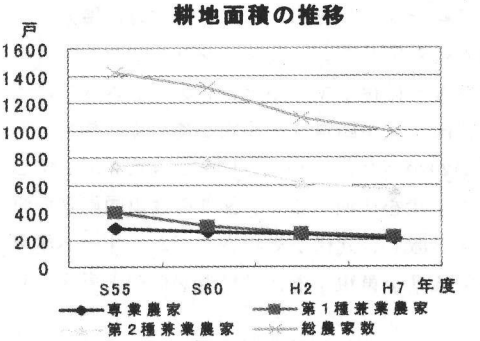
②奥里型：集落が丘陵地や里山に囲まれ耕作地が比較的少ない地形。



図－1　対象地の位置関係

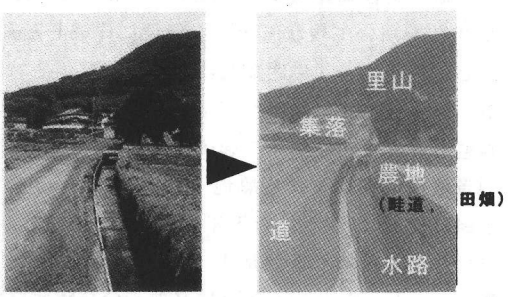


耕地面積の推移



農家数の推移

図－2　志摩町における主な統計



図－3　景観構成要素の抽出例

両者において景観を構成する要素として抽出できるのは、大枠として里山，集落，水路，農地（畦道，田畑），道である。（図-3）

5．ヒアリング

ヒアリング調査は桜井地区の有識者に協力を頂き、地元住民の方々に一戸ごとに訪問した。ヒアリング内容に関しては田園景観への関与が大きいと考えられる農的活動，地元での清掃活動の現状，更に過去から現在までのその管理状況の変遷などに重きを置いた。

6．調査結果

田園管理には、大別して次の二通りが考えられる。

集団的管理：

自治会，子供会，老人会などによる管理であり地元住民が集団として行われる管理。

桜井川，溜池，桜井神社，道路・水路

個人的管理：

各個人又は各戸レベルで行われる管理。

里山：ライフスタイルの変化により昔より行われてきた生活活動や農業における生産性の低下から現在では旧住民によって最低限の管理がされているにとどまり、現在では大半の里山に関して竹林化が進行するなどして放棄状態である。

集落：道路整備などを機に集落における大木が切り倒されている。また、新たに宅地が立てられるに当たっては旧集落では当然のように存在した防風林の役割を果たした垣根や樹林が見られなくなっている。

水路：水源として地下水を利用している当地では、地元住民の水路への管理は必要不可欠なものであり農業関係者を始めとして独自に管理されていることが多く、その管理状況は多様である。

農地：農業に携わる地元住民によって生産性の向上などの目的から土地所有者個人によって管理されているのが一般的である。

道：各戸に接続する道路などに関して独自に清掃，草取りがされている。

7．管理状況のパターン化

景観構成要素に関する管理状況は以上のように整理できるが、各構成要素への維持管理への取り組み状況は個人差があり以下のようなパターン化が図れる。

パターン①：

主に旧住民であり，専業農家などの農業に深く関係を持つ集団。

パターン②：

主に旧住民であり，兼業農家。何らかの形で地元の農的環境に関わりを持つ集団。

パターン③：

主に新住民であり，地元の風習に積極的に溶け込もうとする集団。

パターン④：

主に新住民であり，孤立している。また、旧住民であるが農業との関係は無く他産業に従事する集団。

これらのパターンにより要素への関わり方や集団的管理への参加状況について下表-1のような特徴が見られる。

表-1　パターン別に見る管理への参加態度

	集団的管理	個人的管理
パターン①	○	○
パターン②	○	△
パターン③	○	×
パターン④	×	×

○：積極的
△：普通
×：全く関与しない

8．考察とまとめ

以上ヒアリング調査から対象地における景観構成要素への関わり方を整理できた。管理状況のパターン化によりその各々についての管理への実態が整理できた。このような整理において注目されるのは農業関係者の減少や生産性が失われた農地などに対して管理活動が十分に行われなくなってきていることである。これは、景観構成要素の大半に関して土地所有者による個人的管理がなされていることに深く関係するものと考えられる。今後、田園景観を維持していくためには手の届かなくなりつつある個人レベルの管理に対して新たな管理体制が必要とされている。

参考文献

古島敏雄・深井純一編，地域調査法，東京大学出版会，1985
樋口忠彦，景観の構造，技報堂出版株式会社，1993
進士五十八・鈴木誠・一場博幸編，ルーラルランドスケープデザインの手法，学芸出版，1995
祖田修，農村地域政策の課題－中小都市と農村の結合－，1999，農村計画学会誌 Vol17, No14
他